

【藤岡市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

本県では、新・群馬県総合計画において、「群馬の環境を生かした教育×デジタルを活用した新しい教育＝群馬ならではの新しい学び」の確立により、始動人（自分の頭で未来を考え、動き出し、生き抜く力を持つ人）の育成を目指すことを掲げている。また、群馬県教育ビジョン（第4期教育振興基本計画）や、第2期群馬県教育大綱においても、「ICTを活用した教育イノベーションの推進」を政策の1つとして掲げている。そのことから、本市では「ICTを活用した群馬ならではの新しい学び」＝「始動人の育成に向け、ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る空間的・時間的な制約を超えた学び」の実現を目指す学びの姿とする。

そのために1人1台端末をはじめとするICT環境を積極的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることで「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。その際に、一斉授業か個別学習か、デジタルかアナログか、遠隔・オンラインか対面・オフラインかといった「二項対立」に陥ることなく、どちらの良さも適切に組み合わせて生かしていく必要がある。

2. GIGA第1期の総括

国のGIGAスクール構想を受け、本市では、令和3年度までに市立小中学校16校の児童生徒に対し、計4,802台の1人1台端末の整備を完了するとともに、高速通信ネットワークや無線LAN環境の整備を行い、ICTを基盤とした新たな学びの確立を進めてきた。

また、市立小中学校では、学校間、教員間でICTの活用状況に差が生じないよう、令和2年度から令和4年度まで、「藤岡市ICT教育実践推進校」としてモデル校を指定し、公開授業や実践発表を行い、1人1台端末を活用した授業を推進してきた。

この取り組みによりICT活用が推進された一方で、ICTを活用すること自体が目的となる授業も見られたことから、今後は学びの基盤としてのICTの有効活用の在り方を研究していく必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

藤岡市教育委員会は、市立学校における1人1台端末の効果的な活用を推進している。文部科学省のGIGAスクール構想に基づき、各生徒が個別の端末を所有し、学習の質を向上させることを目指している。

具体的な施策として、端末の家庭への持ち帰りを奨励し、家庭学習や保護者との連携を強化している。また、校外学習や地域活動においても端末を活用し、実地での情報収集や発表に役立てている。これにより、学習の場が教室内に留まらず、広がりを見せている。さらに、個々の家庭状況や学校教育になじめない児童生徒に対する学びの機会の保障や地理的条件に影響されない教育の機会均等を確保することもできている。

導入しているアプリケーションとしては、ミライシードやドリルパークなどがあり、これらを通じて協働学習や個別指導を実現している。ICT活用は学びの質や学びの転換（学び方や教師の指導・支援）に大きな影響を与える。端末を使うこと自体が目的化しないよう、学びを深めるための手段として位置づけ、ICTを使う目的を常に明確にし、授業の中でその利点を生かせるように、ICT活用の意義とその効果を十分に理解しておくことが大切である。